

鳥取砂丘コナン空港の収支について

令和 7 年 4 月 1 日
空 港 振 興 室

鳥取砂丘コナン空港の空港運営の状況をわかりやすくするために、同空港に係る経費を取りまとめた空港収支を作成しましたのでお知らせします。

なお、本県では、予算編成過程の公表を通じて、空港管理費や空港整備費などそれぞれの事業については別途情報開示しています。

参考までに、全国の空港においても、運営コストの縮減や効率的な運営、有効活用を推進するために、空港収支が公開されています。

令和 5 年度 鳥取砂丘コナン空港 空港収支

(単位:千円)		
項目	金額(県)	金額(運営権者)
歳入 (A)	160,726	744,229
運営交付金収入	0	495,822
着陸料等収入	0	35,516
土地建物等貸付料収入	0	50,489
国庫補助金・交付金等	147,307	0
借入金	0	0
航空機燃料税	13,419	0
諸収入	0	162,402
歳出 (B)	957,547	770,246
空港整備事業費	172,026	0
空港等維持運営費	688,143	770,246
土地建物借料	19,428	0
県有資産所在市町村交付金	23,527	0
借入金償還	54,423	0
翌年度消費税還付額 (C)		37,030
歳入－歳出＝(A)－(B)＋(C)	▲ 796,821	11,013

注)

- 平成 30 年度からは、国際線ターミナルも空港収支に含めています。

《運営権者》

- 令和 5 年度の航空機利用者数は、新型コロナウイルス感染症の影響がなかった令和元年度とほぼ同水準まで回復し、一般来場者数は、令和元年度の数値を超えました。これによりテナント店舗収入が増加するなどし営業収入が増加しました。また、本県から委託した国庫補助事業の航空灯火 LED 更新事業および滑走路端安全区域 (RESA) 整備事業が本格化し、収支ともに増加しました。空港の利用や空港整備事業が活発になり、収支は黒字に転じました。
- 平成 30 年 7 月から、鳥取県は鳥取空港ビル株式会社と鳥取県営鳥取空港特定運営事業等公共施設等運営権実施契約を締結したため、鳥取県営鳥取空港特定運営事業の収支状況についても合わせて掲載しています。詳しくは、運営権者である鳥取空港ビル株式会社ホームページ内の「鳥取県営鳥取空港特定運営事業実施計画・実施状況報告」をご覧ください。

《鳥取県》

- 「空港整備事業費」は、航空灯火 LED 更新事業および滑走路端安全区域 (RESA) 整備事業を実施しています。
- 「空港等維持運営費」は、主に運営権者に対する「運営交付金」を計上しています。その他、国際線ターミナルビルの空調機器や非常用発電機の更新等を計上しています。また、化学消防車 (10,500 L 級) の購入に係る経費も計上しています。